

第9回

IKIMONO



生きもの写真

リトルリーグ

2026



小中高生
対象

受賞作品集

全国の小中高生373名から

計907作品が

集まりました!

自然や生きものの魅力を切り取った
あらゆる写真をぜひご覧ください!

【主催】公益財団法人 セディア財団

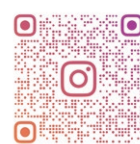
【後援】小諸市、小諸市教育委員会、公益財団法人 いたみ文化・スポーツ財団(伊丹市昆虫館)、上田市、上田市教育委員会、株式会社コミュニティテレビこもろ、株式会社小諸新聞社、公益財団法人 森林文化協会、東信ジャーナル社、長野県、一般社団法人 長野県観光機構、一般社団法人 日本自然科学写真協会、公益社団法人 日本写真協会、特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会、公益財団法人 八十二文化財団

【協賛】パナソニック株式会社、株式会社ミマキエンジニアリング、株式会社ケンコー・トキナー、株式会社ワイルドローズ

【協力】株式会社ワン・パブリッシング「CAPA」、「CAPA CAMERA WEB」
株式会社インプレス「デジタルカメラマガジン」、「デジカメ Watch」
株式会社日本写真企画「フォトコン」

Instagramでは
前回入賞作品や
最新情報を
随時発信中!

詳しくは
こちらから!



SEDIA_FOUNDATION_LITTLELEAGUE

審査委員のご紹介



昆虫写真家 うんの かずお 海野 和男



写真家 あんじゅ 安珠



フォトエディター いしだ たつお 石田 立雄



科学写真家 いちじ くにお 伊知地 国夫

審査委員長 うんの かずお 海野和男先生からのメッセージ

公益財団法人セディア財団主催「生きもの写真リトルリーグ2026」の本選審査および表彰式は、昨年度に続き、市立小諸高原美術館に入賞者を迎え、無事に現地で開催することができました。

今回は373名の応募者から907点もの作品が集まり、大変嬉しいことにいずれも過去最高の数字となりました。甲乙つけ難い作品の数々に、審査委員一同大いに悩みました。また、今回は今までと比べ単写真の作品が多く、一枚の写真で生きものの魅力や

力強さを表現した作品が多く見られたことも素晴らしいことでした。昨年同様に野鳥の写真が多く、年々作品のレベルが高まっているのを感じます。

生きものの写真を子供の頃から撮ることで、これからの地球環境を身近なところから考える子供たちが育つことを願っています。

うんの かずお
審査委員長 海野 和男

結果発表

最優秀作品賞〈セディア財団賞〉

北海道教育大学附属旭川小学校 5年生

せ と つむぎ
瀬戸 紬 「うずくまる」

優秀作品賞

〈小学生部門〉

渋谷区立笹塚小学校 4年生
こざわ そら
小澤 空
「燃えさかる大地」

〈中学生部門〉

神戸市立御影中学校 1年生
あらい そうすけ
新井 颯介
「食べるは生きる」

〈高校生部門〉

福岡県立明善高等学校 1年生
いのくち かなと
猪口 嘉南斗
「birth」

小諸市長賞

埼玉県立岩槻高等学校 2年生
いしだ ゆうま
石田 悠真
「あの空の彼方へ」

入 選

大阪市立南田辺小学校 4年生
いなとみ むくま
稲富 六熊
「冬の装い」

久留米信愛中学校 1年生
いしい こうた
石井 康太
「野鳥ファミリー」

一燈国中学校 1年生
いけじま あさひ
池島 朝陽
「ファインダーで捉えた憧れの鳥」

兵庫県立神戸高等学校 1年生
あらい しんいち
新井 真一
「共に育つ」

本選審査・表彰式の模様

2026年8月1日(土) 市立小諸高原美術館において、
「生きもの写真リトルリーグ 2026」の本選審査・表彰式を開催しました。
厳正な審査を経て受賞作品が選ばれ、会場には多くの応募者や関係者が集いました。
表彰式は終始あたたかな拍手に包まれ、盛況のうちに幕を閉じました。



表彰式直前に行われた、本選審査の様子



表彰式の開催地、市立小諸高原美術館



受賞者のみなさんから作品への熱い思いをお話いただきました



副賞としてデジタル一眼カメラ等の豪華賞品を授与



受賞者の皆さま、
おめでとう
ございます！

表彰式後は記念撮影を行いました

最優秀作品賞〈セディア財団賞〉

「うずくまる」

北海道教育大学附属旭川小学校 5年生 ^{せ と つむぎ} 瀬戸 紬



▶ 作品について

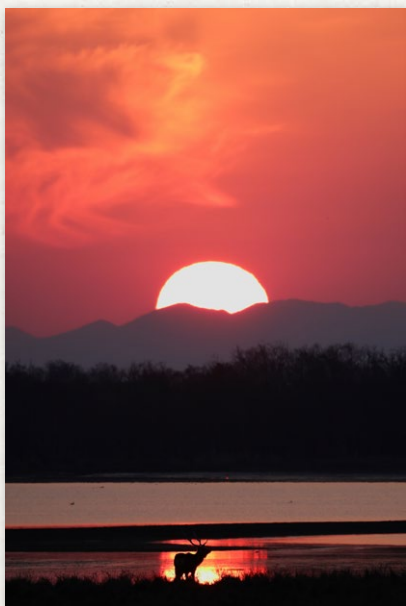
ウトナイ湖のほとりに1羽の白鳥がうずくまっていました。人が近寄っても逃げないので、どこかケガをしているのかな？と思いました。仲間とはぐれて困っていたのかもしれませんが。ふわふわの真っ白できれいな羽が印象的でした。

優秀作品賞

〈小学生部門〉

「燃えさかる大地」

こざわ そら
渋谷区立笹塚小学校 4年生 小澤 空



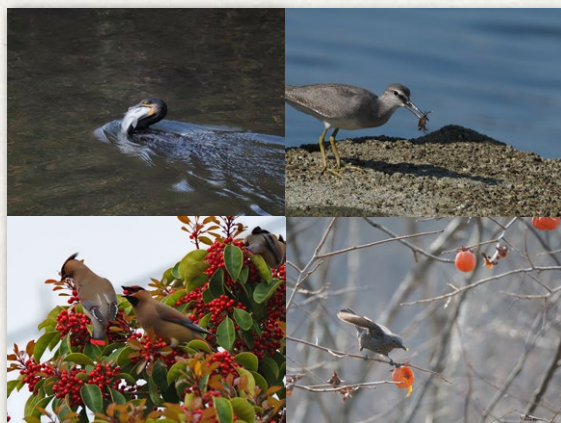
▶ 作品について

この写真は鹿を探していて、偶然
きれいな夕日が見えたので車の外
に出てみたら、夕日と鹿の体が
ぴったり重なっていました。鹿が
大地を燃やしているように見えて、
とてもかっこよかったです。

〈中学生部門〉

「食べるは生きる」

あらい そうすけ
神戸市立御影中学校 1年生 新井 颯介



▶ 作品について

人も鳥も食べないと生きていきま
せん。鳥たちは生活の8割の時間
を食事に使います。現代人の我々
と違って、楽に食事にありつくこ
とができないためです。そのような姿
を残したくて撮影しました。

優秀作品賞

〈高校生部門〉

「birth」

福岡県立明善高等学校 1年生 いのくち かなと 猪口 嘉南斗



▶ 作品について

私は小学生の頃から毎年セミの幼虫を捕まえ、羽化を観察している。土の中で何年も過ごすセミだが、卵や初齢幼虫を見ることはできないのだろうか。前年、クマゼミが産卵した枝から孵化する瞬間。卵の中で眠っていた小さな命が外の世界へ現れる姿を捉えた。長年追い続けた夢が叶った一枚。

小諸市長賞

「あの空の彼方へ」

埼玉県立岩槻高等学校 2年生 いしだ ゆうま 石田 悠真



▶ 作品について

自分の大好きなルリビタキの羽ばたきの瞬間を捉えた自分のお気に入りの写真です！羽の色味であったり、普段見ることのできない羽の下側にある体羽などルリビタキの隠れた良さを引き出しました。

入選

「冬の装い」

いなどみ むくま
大阪市立南田辺小学校 4年生 稲富 六熊



▶ 作品について

北国の冬、キツネもリスもふさふさになり、鳥の羽毛は空気をためてふくらむ。きびしい寒さの中で、彼らがたくましく生きる工夫。動物の毛や鳥の羽毛はすごいな。

「ファインダーで捉えた憧れの鳥」

いけじま あさひ
一燈園中学校 1年生 池島 朝陽



▶ 作品について

冬の寒い日、河川敷で憧れのコミミズクをじっと待っていました。集中力が切れそうになった瞬間、草むらから飛び出して何度もダイブを開始！生きるために一生懸命な姿に感動し、夢中でファインダーで追いかけてました。

「野鳥ファミリー」

いしい こうた
久留米信愛中学校 1年生 石井 康太



▶ 作品について

マナヅルの求愛、カワウの巣作り、コウノトリの子育て、クロツラヘラサギの家族飛行が撮れました。クロツラヘラサギは家族単位で行動することがあるそうで、先頭の二羽は成鳥だから親鳥だと思います。野鳥が家族と共に行動する姿を見て、野鳥も仲間を大事にして生きているのだと感じました。

「共に育つ」

あらい しんいち
兵庫県立神戸高等学校 1年生 新井 真一



▶ 作品について

アオサギの繁殖地を見ると、どの巣でも親鳥からは餌をもらったり日差しから守られ、ヒナ同士ではくちばしでじゃれ合ったりして共に育っていることを感じました。

審査委員講評

各作品への講評をご紹介します。

今回の写真コンテストを踏まえて

自身の感性をさらに磨くとともに、

自然と人の共生について

見つめ直していただくことを期待しています。

優秀作品賞 「燃えさかる大地」

渋谷区立笹塚小学校 4年生 小澤 空

講評(審査委員 石田 立雄)

北海道・道東の野付半島で出会った一頭のエゾシカが、沈む夕陽に向かって歩いて来る。夕陽を受けた水面が光り輝いている。エゾシカは、まるでその中へと入って行くかのようにゆっくりと進み立ち止まる。その時、“エゾシカが大地を燃やしているかのよう”に見えた小澤空さんは、その期を逃さずシャッターを切ったそうです。まさに幸運な出会いに反応し、「かっこよく」撮れた1枚ですね。

優秀作品賞 「birth」

福岡県立明善高等学校 1年生 猪口 嘉南斗

講評(審査委員長 海野 和男)

木の幹に産みつけられたクマゼミの卵から幼虫が出てくるのは翌年です。いつ孵るか分からない卵を大事に管理して、少ない情報を調べて孵化の瞬間を撮ろうと様々に試行錯誤されたことでしょうか。孵化間近に水をかけることで孵化をうながし、その瞬間を待ち続けたそうですが、とても忍耐のいる撮影だったと思います。

入賞 「冬の装い」

大阪市立南田辺小学校 4年生 稲富 六熊

講評(審査委員 伊知地 国夫)

冬の北海道で見つけた動物や鳥の冬の装いを、とてもうまく撮影しました。キツネやリスの毛はふさふさして、とても暖かそうですね。木のうろの中のフクロウやキバシリも暖かそうな羽毛に包まれています。写す生きものを見つけるのは難しくなかったとのことですが、それはきっと観察力がするといひですね。自然の中の生きものが冬を迎えるようすが伝わってくるとても良い作品です。

入賞 「野鳥ファミリー」

久留米信愛中学校 1年生 石井 康太

講評(審査委員 石田 立雄)

文字通り野鳥の家族を撮った写真群で、鹿兒島、佐賀、三重県を巡る様々なシーンを根気よく撮っています。ヒナたちの表情までわかる位置取りで捉えたコウノトリの親子、マナヅルが雌雄で鳴き交す姿、クロツラヘラサギ一家の白色がまぶしい優雅な飛翔、樹上に屈強な巣を作るカワウ夫婦。どれも、その鳥がイチバン輝いているシーンを捉えた、野鳥家族への励ましのこころが伝わってくる作品です。

最優秀作品賞(セディア財団賞) 「うずくまる」

北海道教育大学附属旭川小学校 5年生 瀬戸 祐

講評(審査委員 安珠)

旅の途中で出会った一羽の白鳥。大人が通り過ぎてしまうような小さな命の佇まいに「怪我をしているの? 仲間とはぐれたの?」と、そっと歩み寄り静かにシャッターを切った優しい眼差しが心を打ちます。水辺の光と羽の柔らかな質感を丁寧に捉え、白鳥の呼吸や心の揺らぎまで写し止めたかのような作品。生命への深い慈しみと純粋な感受性が重なり合った、最優秀作品賞(セディア財団賞)にふさわしい温かな作品です。

優秀作品賞 「食べるは生きる」

神戸市立御影中学校 1年生 新井 颯介

講評(審査委員 伊知地 国夫)

4種類の鳥がエサをとる様子をよい構図で、とてもうまく撮影しました。カワウは飲み込めるのかと思う大きな魚を、キアシシギはカニを、ヒレンジャクとイソヒヨドリは木の実をと、鳥によって食べるものが違うこともよくわかります。食べる場所が大きく違うのも、飛べる鳥ならではのですね。動物が自然の中で生きるための「食べる」という生態がよく伝わるとても良い作品です。

小諸市長賞 「あの空の彼方へ」

埼玉県立岩槻高等学校 2年生 石田 悠真

講評(審査委員長 海野 和男)

美しいルリビタキが空へ向かって飛び上がるまさにその瞬間を見事に捉えました。ルリビタキは美しい鳥で、珍しい鳥でもあるので、何度も何度もトライして撮影できたのだと思います。ルリビタキの飛翔を撮りたいという作者の想いが伝わってくる作品です。

入賞 「ファインダーで捉えた憧れの鳥」

一燈園中学校 1年生 池島 朝陽

講評(審査委員 安珠)

冬の河川敷の寒さに耐えて、憧れのコミミズクを待ち続けたからこそ出会えた、決定的な一瞬が見事に捉えられています。広げた翼の美しい質感はもちろん、鋭くこちらを見据える眼差しには野生の生命力が宿っており、見る者を強く惹きつけます。動く被写体を的確にフレームへ収める高い集中力と技術は、鳥が大好きな証拠です。コミミズクへの深い敬意が伝わってくる素晴らしい力作ですね。

入賞 「共に育つ」

兵庫県立神戸高等学校 1年生 新井 真一

講評(審査委員 伊知地 国夫)

サギのヒナが、親やヒナ同士の関わりの中で成長していく様子をうまく撮影しました。ヒナの視線の先にいる親鳥もしっかりとヒナをみていますね。親鳥の愛情を感じます。ヒナ同士がじゃれ合っている背景に、それを見守っている感じの親鳥をうまく写しました。巣立ち前のヒナをみる親鳥も何か誇らしげで、ヒナの成長の過程が伝わってくるとても良い作品です。

コンテスト要項

生きもの写真リトルリーグは「生きもの」をテーマとした写真コンテストです。自然や生きものに興味を持つ、全国の小学生・中学生・高校生を対象に、全国各地に暮らす生きものたちの魅力を表現した写真を応募いただきました。この写真コンテストが、子どもたちが自然や生きものを見つめ、自然と人の共生を自発的に考えることで、写真や芸術の表現力を育む機会になればと願っています。

テーマ

「生きもの」 ※生きものには植物・きのこなどを含み、人は含みません。

対象

小学生、中学生、高校生の個人の応募

※応募にあたっては、保護者の方の同意が必要となります。

※個人での応募に限ります。

募集内容

単写真または最大4枚の組写真。

お一人あたりの応募は最大4作品まで。

一枚につき10MB 以下のJPEG データでご応募ください。

応募期間

2026年4月1日(水)～5月31日(日)

賞と賞品

- ◆最優秀作品賞(セディア財団賞):賞状、記念楯、副賞(LUMIX「DC-G100DK-K」とワイルドローズ「ライトバックバック25L」)……1点
- ◆優秀作品賞:賞状、記念楯、副賞(LUMIX「DC-TZ99-K」とワイルドローズ「ライトバックバック25L」)……小中高生から各1点ずつ3点
- ◆小諸市長賞:賞状、記念楯、副賞(ケンコー・トキナー「SGEX 8×34 OP WP」とワイルドローズ「ライトバックバック25L」)……1点
- ◆入選:賞状、副賞(ケンコー・トキナー「SG EX Compact 8×20」)……4点
- ◆参加賞:
カメラレンズやスマホに使えるマルチクロス……応募者全員

審査方法

小・中・高それぞれ3点ずつ、計9点を予選審査にて選定し、本選にて各賞を決定。

※本選進出した場合、下記2名を市立小諸高原美術館にて8月1日(土)開催の本選・表彰式に前日の宿泊よりご招待いたします。

(現地までの往復の交通費を含みます。) 応募者 / その保護者または担当教諭1名。

〈審査委員〉 審査委員長 / 海野 和男 うんの かずお 審査委員 / 安珠 あんじゅ
審査委員 / 石田 立雄 いしだ たつお
審査委員 / 伊知地 国夫 いちじ くにお

入賞発表

2026年8月上旬

応募方法

撮影した写真データをGoogleフォームより必要事項入力の上、ご応募ください。

個人情報のお取り扱い

応募によりご提供いただいた個人情報は、事務局で厳重に管理し、生きもの写真リトルリーグの運営上の各種手続き(応募に関する結果連絡、賞品の発送、入賞者・作品の発表など)以外には利用しません。

経過報告

作品募集

2026年4月1日(水)よりセディア財団HP上で情報公開と作品募集を開始しました。

締め切り

5月31日(日)の応募締め切り日までに、全国の小学生・中学生・高校生373名から、計907作品もの力作が集まりました。

予選審査

審査期間:6月1日(月)～7月1日(水)

応募作品を慎重に絞り込み、最終審査会への進出作品を小・中・高それぞれ3点ずつ、計9点を選出しました。

本選審査

開催日:8月1日(土) 場所:市立小諸高原美術館

予選審査で絞り込まれた作品9点を対象に厳正に審査を実施し、受賞作品を決定しました。

※受賞者・受賞作品は1ページ参照